

「子供たちの心身の健全な発達のための子供の自然体験活動推進事業」報告書  
『子ども森林インストラクター推進プロジェクト』  
(一社)日本森林インストラクター協会・関東支部・神奈川地区

#### 【事業のポイント】

- 竹を伐ったり加工することで、竹材を知り、加工道具を知る。
- 楽器作りを通して、音が出る仕組みを知る。

## 1.事業の趣旨

### (1) 趣旨

竹を伐採し、切ったり穴を空けて打楽器や管楽器を作り、演奏する。

## 2.実施概要

### (1) 構成団体(運営体制)

関東支部長：田川裕則

神奈川地区委員：渡邊英夫(安全管理担当兼務)

神奈川地区事務局：中澤均

指導者：宇佐美良徳、角田昌司、梶浦雄介、久保典子、辻真澄、藤川大司、松山成二

### (2) 開催実績

月日：令和3年3月20日(土・祝)

場所：南足柄市・神奈川県立21世紀の森

参加者数：小学生7名(小3～6)、

指導者8名、

総勢15名

日帰り/宿泊：日帰り(午前9時30分～午後3時)

主な活動：① 21世紀の森 園内の竹林(マダケ林)にて、竹の伐採作業体験

② 竹を伐って、打楽器(バリンビン、ミニクランポン/竹琴)の作成

③ 竹を伐って、管楽器(ケーナ、篠笛/フルート、パンフルート)の作成

### (3) 具体的な取組の概要

集合場所：南足柄市・神奈川県立21世紀の森 駐車場

10:00 集合、オリエンテーション

・受付時に、体温測定(検温)し、事前アンケートを記入してもらう。

・全体オリエンテーション(スケジュールと活動の概要説明)をする。

・参加者7名で、指導者8名も含めて自己紹介。

10:10 竹林に移動し、竹の伐採を体験。

・参加者ごとに指導者が付き、竹の伐り方、枝の払いかた、また竹林の整備(切り株の処理、枝の処理、等)を体験。

11:00 21世紀の森・運動広場にもどり、打楽器(バリンビン、スリットドラム、竹琴、など)の作成。

12:00 運動広場の周囲に分散して、昼食。

12:20 管楽器(ケーナ、篠笛、パンフルート、竹ボラ、など)の作成。

14:30 振り返り

・事後アンケートを記入してもらい、①プログラムで楽しかった事、②発見した/不思議と思った/おどろいた事、を全員に発表してもらい、今日のプログラム体験での気づきを共有。

14:50 事後アンケートを回収し、会場の片づけ(竹の残材をまとめる)をして、駐車場へ移動。

15:00 21世紀の森・駐車場にて、解散

・今年(令和2年)度のプログラム全4回への参加のお礼、次年(令和3年)のプログラムについては決定したらご案内する旨を説明して、迎えの保護者に参加者引渡し。

15:10 指導者で振り返り、まとめを報告。

15:30 21世紀の森事務所に本日の報告をして、指導者、解散。

### 3.成果と課題

#### (1) 事業の成果と課題

##### ① 竹(竹林)の伐採作業

- ・参加者1名に指導者が1名のマンツーマンとなり、竹林内で竹の伐り方、伐った竹の枝払いや枝のまとめ処理などを指導した。マンツーマンの指導で、参加者全員が竹鋸を使って作業体験することができた。
- ・手入れがあまりされていない竹林で、細い竹の伐採中でも竹が裂けることがあり、その裂けた竹が跳ね上がって後方に立っていた人の顔に当たることがあった。幸い、けがは発生しなかったが、伐る人、指導/見守る人、それぞれの立ち位置は竹が倒れる方向の前後ではなく横に位置しなければならないことを、身をもって体験した。
- ・伐り出した竹を、楽器作りの場所まで運んだが、5～7mの長いままに運んだ人、2.5m程度に刻んで運んだ人、と様々な運び方となった。長いまま運んだ人は、一人では運べず前後に二人で持って運び、協力することができた。

##### ② 打楽器の作成

- ・[バリンビン] 下見の際に作成したバリンビンの見本を見て、鋸で竹材の伐り出し、ドリルでの穴あけ、鉋での竹割り、小刀での削りだし、の作業を体験し、全員が作成した。作業に際しては、指導者が安全管理をして、それぞれの道具の持ち方、支える手の添え方、刃物への力の加え方、などを指導した。以降の楽器作成の際には、参加者も徐々に道具の使い方を習熟し、使いこなしていた。
- ・[スリットドラム] 太い竹の側面に鋸を使って切れ目をいれたり、たたき撥(バチ)も細い竹の節を使って作成した。作成したドラムの両端に紐を通して、肩に懸けてドラムを鳴らす工夫をする参加者もいた。
- ・[竹琴] やや細めの竹の片方を節で塞ぎ、長さを変えて音の高低を実現した。6本程度、長さを変えて音階を作り、錐(きり)で穴を開けて紐を通して吊り下げ、竹の節を使った撥で叩けるようにして作成した。数週間前に伐った竹と、直前に伐った竹では音の響きが異なる(竹材の水分、乾き方による差)ことも体験した。

##### ③ 管楽器の作成

- ・[ケーナ] 予め用意した型紙を使って、長さ30cmほどに竹の筒を伐りだし、歌口を鉋又は小刀で削って紙やすりで仕上げ、指押さえの穴はドリルで開けた。歌口への息の吹きかけ方が難しく、なかなか音を出せなかった。
- ・[篠笛(フルート)] ケーナと同様に、予め用意した型紙を使って、やや細めの竹を節をいれて30cm程度に伐りだし、歌口や指押さえの穴をドリルで開けた。ケーナと同様に歌口への息の吹きかけ方にコツが必要だが、縦笛のケーナよりは横笛である篠笛のほうが音を出しやすく、何名かの参加者はしっかり音を出せていた。
- ・[パンフルート] 篠竹を複数本、長さを変えて伐りだして並べ、ビールビン鳴らしの要領で音を出す。最初に"ド"の音がでる管を作り、それを基準に少しずつ短めに伐って音程を確かめながら、"ドレミファソラシ"の8音を作成、並べて完成。比較的、音を鳴らしやすく、作成した参加者は気に入っていた。
- ・[竹ボウ] 太い竹を一節分だけ伐り、節側に18mmの穴を開けるだけで完成。鳴らすには、穴に当てた唇をブーッと振動させるが、唇を振動させることに苦労していた。

##### ④ 全体を通して

- ・マンツーマンでの体験指導で、十分な安全配慮と指導ができた。
- ・竹林内での比較的細い竹の伐採でも、伐るに従って竹が倒れる方向を確認して、立ち位置を考慮しなければならないことを、身をもって体験できた。
- ・今回は参加者小学生が7名、うち女子が1名だけだったが、これまでの第3回までで顔見知りにもなっていて、参加者同士で打ち解けていた。
- ・指導者が楽器を作るのに夢中になってしまうことがあった。参加者の楽器作りを、あくまでもサポートする、という立場だったが、サポートをしているうちに指導者自身が作り出してしまうことがあった。

#### 4.団体プロフィール

##### ・団体概要

(一社)日本森林インストラクター協会 関東支部 神奈川地区

(一社)日本森林インストラクター協会に所属する森林インストラクターを中心に、NPO 法人・全国森林インストラクター神奈川会の協力、了解を得て、メンバーを構成。他に、森林インストラクターを目指すメンバー1名も加えて、全12名(支部長、地区委員を含む)の指導者(R3年3月21日現在)。

・連絡先 地区委員: 渡邊英夫 hwatana@mvi.biglobe.ne.jp 携帯電話 080-5028-9661

##### ・施設

第4回事業では、「神奈川県立21世紀の森」を利用

県立21世紀の森 管理事務所 〒250-0131 南足柄市内山 2870-5 TEL 0465-72-0404

#### 5.写真

##### (1) 活動写真(キャプション付)



(写真1) 竹の伐採体験



(写真2) 伐採した竹の処理(枝払い)体験



(写真 3) 打楽器・バリンピンを作成・鋸使用



(写真 4) 打楽器・竹琴の作成・錐(きり)使用



(写真 5) 作成した楽器・篠笛の音出し



〈写真 6〉作成した管楽器・パンフルート

(2) 団体写真(キャプション付)



〈写真 7〉お気に入りの作った楽器を持って  
集合写真撮影

以上

(2021 年 3 月 21 日、地区委員:渡邊報告)